



同窓会だより

第57回全国歯科大学同窓・校友会懇話会（全歯懇）

同窓会副会長 野村修一

日時 平成22年9月18日(土)14時～18時
場所 ルネッサンスホテルサッポロ
当番校 北海道医療大学歯学部同窓会

第55回全国歯科大学同窓・校友会懇話会が、平成22年9月18日(土)に札幌市のルネッサンスホテルサッポロを会場に北海道医療大学歯学部同窓会の主催で開催された。多和田孝雄会長、鈴木政弘副会長と私の3名で出席した。

来賓挨拶とシンポジウムで大半の時間が過ぎた。協議では九州歯科大学から「全歯懇の今後を考える」提案があり、意見の開陳があった。口頭での突然の提案であり、内容的にも反対意見は出しにくい雰囲気であったが、終了予定時刻も迫っており、次回当番校を中心に対応を検討することとなった。

会次第と概要

1. 開会の辞

北海道医療大学歯学部同窓会
副会長 南 誠二

2. 当番校会長挨拶

北海道医療大学歯学部同窓会
会長 藤井 健男

3. 来賓紹介

4. 出席者紹介

5. 来賓挨拶

日本歯科医師会 会長 大久保満男
日本歯科医師連盟 会長 堤 直文
北海道歯科医師会 会長 富野 晃
北海道医療大学 学長 新川 詔夫

参議院議員

西村まさみ

6. シンポジウム「地域連携医療における歯科の役割—連携体制の構築への提言—」

・地域包括ケアの推進と歯科の役割
三浦 宏子

(国立保健医療学院 口腔保健部部長)

①高齢者をとりまく環境の変化、②高齢社会の進展に向けた健康関連政策、③高齢社会における歯科のニーズと課題を総括的に講演した。

・地域医療連携のための歯科医療のあり方
大久保満男 (日本歯科医師会会長)

在宅医療における歯科の役割、歯科医療と介護など地域連携の展望を講演した。

・苫小牧保健所管内における地域医療連携の歯科領域での取り組み

丹下 貴司

(北海道胆振保健福祉事務所 主任技師)

北海道東胆振地域における医療・福祉・保健の連携体制での取り組み事例を報告した。

7. 報告

大阪歯科大学同窓会、日本大学歯学部同窓会、九州歯科大学同窓会、東京歯科大学同窓会、東京医科歯科大学同窓会、愛知学院大学歯学部同窓会から、今年開催された行事の御礼や来年の行事予定が報告された。





また、日本歯科大学校友会からは参議院選挙への協力御礼があった。

8. 協議

議題(1) 次々期当番校選出

第59回全歯懇の当番校として日本大学歯学部同窓会が選出された。

平成24年10月6日(土)を予定しているとの案内があった。

議題(2) その他

九州歯科大学同窓会から、「全歯懇の今後のあり方」について討議してほしい旨の提案があった。

全歯懇が単なる交流の場ではなく、社会に対して情報を発する場にしたい旨の提案があり、賛成意見も複数あったが、次回当番校の東京歯科大学が中心となって今後の対応を協議することとなった。

9. 次期当番校挨拶

東京歯科大学同窓会 会長 大山 萬夫

10. 閉会の辞

北海道医療大学歯学部同窓会
副会長 西 一幸



1. 開会の辞

北海道大学歯学部同窓会
常務理事 藤井 一郎

2. 当番校会長挨拶

北海道大学歯学部同窓会
会長 村井 清彦

3. 出席者紹介

4. 講演会

演題

「歯科診療は正当な評価をされているか～今、改善のために何をすべきか～」

講師

全国保険医団体連合会 副会長 田辺 隆
講演要旨

歯科医療を取り巻く環境が非常に厳しい状況にあることについて、どうしてこのような事態になってしまったのかを、診療報酬改定の歴史を振り返って整理した。歯科医療費の国民医療費に占める割合は1955年の13.0%から2007年の7.3%とおよそ半減している。1955年に歯科差額制度が導入され、その後その範囲が拡大された。この制度の導入により、厚生省は公的医療費の縮小と歯科開業医の不満を回避させることとした。日歯執行部も「脱保険路線」を唱え、厚生省に追従する姿勢をとった。しかしながら、1972年頃から歯科差額に対する国民からの苦情が増加し始め、1976年に差額徴収廃止の通達がなされた。この制度の存在によって、歯科医療、特に補綴関連の医療保険財政上の低い評価が続くもとなつた。その後、診療報酬改定の仕組みが変更されてきたが、1984年改定から薬価引き

平成22年度国立大学歯学部同窓会 連絡協議会報告

同窓会副会長 鈴木 政弘

平成22年9月19日、全歯懇の翌日に札幌市センチュリーロイヤルホテルにて、平成22年度国立大学歯学部同窓会連絡協議会（国歯協）が当番校北海道大学歯学部同窓会の主催で開催されました。全11校（北海道大学、東北大学、新潟大学、東京医科歯科大学、大阪大学、岡山大学、広島大学、徳島大学、九州大学、長崎大学、鹿児島大学）の同窓会役員32名が参加し、新潟大学歯学部同窓会からは、多和田会長、野村副会長と私の3名が参加しましたので、会次第に添ってご報告致します。



下げ財源充当方式が定着することとなり、薬剤比率が低い歯科は拠出財源を持たないことから発言力が弱まり、診療報酬が歯科に決定的に不利となる構図となり、1997年までの期間に医科と歯科に大きな格差が生ずることとなった。なお、裏話として、この医科が有利になる改定に当時の歯科医師会会長が、あまり考えることもなく軽い気持ちで合意してしまったことが元凶であると伝えられている。その他に、医科との格差が開いた要因に、医科では新技術を健康保険に導入する努力を組織として積極的に行ってきたのに対し、歯科は歯科医師会内部の意見をまとめることができず、新技術の保険導入が極めて少なかった。さらに、長期にわたって評価が据え置かれている項目が多数あったり、包括の名のもとに評価がなくなったり、逆に保険導入されても問題があつてうまく使えないものがあったりと、歯科診療報酬は停滞し続けた。1998年以降の診療報酬改定では、医科・歯科均等方式に政策転換がなされたが、結果的に医科開業医と歯科開業医の所得格差は100対54.6と極端にアンバランスなものとなってしまうが、改定率が同一水準の横並びのために格差は一向に縮まらず現在に至っている。

では、今後どのような方向を目指していくべきかについては、自費診療を延ばして混合診療を認めるべきだという意見もあるが、自費診療をどの医院も延ばせる訳ではない。患者・国民も混合診療の拡大を望まず、保険で良い歯科医療を求めている。政府の低医療費政策を転換させ、歯科医療費の総枠拡大をはかって、「保険でより良い歯科医療」の充実を目指すのが筋であろう。実際、保険給付外項目である小臼歯の前装冠を導入した場合、630億の財源が必要で、国の負担は160億となり、大した額ではない。長年にわたって歯科の技術料が据え置かれ、歯科診療報酬の低さに驚く有識者が多くいるのも事実である。歯科医師会全体の意見をまとめ、総意として「保険でより良い歯科医療の充実」をはかるために歯科技術料の引き上げを地道に訴え

ていくことが重要であろう。

5. 報告

1) 大阪大学より、学術講演会・臨床談話会を会員にオンデマンドで配信していること。次年度より、他校の先生方にも広げる予定であることが報告された。

2) 東京医科歯科大学より、当会加入についてのお礼と、同窓会長のご令嬢である参議院議員西村まさみ先生の参院選当選のお礼ならびに、今回の一連の経緯についての報告があつた。

6. 協議

1) 国立大学歯学部同窓会連絡協議会の名称について

東京医科歯科大学の加入により、旧称新設国立大学歯学部同窓会連絡協議会から「新設」を除いた名称とすることに対し、全校の同意が得られた。

2) 求人・求職及び歯科医院承継情報の共有体制の確立について

新潟大学同窓会から、本事業に対する各同窓会の連携体制の確立へ向けた具体的な取り組みが提案された。各同窓会で承認をとってもらった上で事業をすすめることとなるが、態勢の整った同窓会から順次国歯協メーリングリストに情報を配信し、配信を受けた同窓会が同会の実状に合わせて対応する事が了承された。早速、新潟大学からの情報が配信されることとなった。

3) メーリングリスト活用法について

昨年度から発足した当会のメーリングリストの掲載内容・有効な活用法について協議された。掲載内容については、記念事業・セミナー等の情報・求人・求職情報や歯科医院承継（賃貸・売買）情報の交換、相談事（各校が同窓会運営上困っている事や他校の現状を聞きたい場合）などで利用することが提案された一方で、事務的な内容に限った方が良いという意見もあつた。有効な活用法については、情報の受発信の円滑化を行い、各同窓会



の懸案事項の解決手段にはどうか。会議前の回答、事前協議の意見収集、会議後の経過報告に活用すると良いと提案された。

4) 同窓会費定年免除・減額について

北海道大学が同窓会費定年免除・減額を検討中とのことで、各校へ実施状況と方法について質問された。実施しているが3校、検討中が2校、未検討が6校であった。新潟大学は未検討の回答であったが、実施3校は、大阪大学が70歳で会費免除、鹿児島大学が40期分を完納で免除、東京医科歯科大学が満75歳以上、20年以上の会員で免除であった。

5) 同窓会育英資金について

広島大学が、父兄の経済状況の急変により、経済的に困ってしまう学生に対し、同窓会育英資金を検討中とのことで、他校に同様な事業について問い合わせがあった。歯学部同窓会で行っている学校はなかった。多和田会長より、新潟大学全学で検討していて、給付型では資金がかかり、貸与型では事務手続きが面倒であることが報告された。

6) 会員死亡の場合の同窓会本部の対応について

鹿児島大学から質問があり、時間の都合上、北海道大学からのみ回答があったが、新潟大学と同様な対応の報告であった。

7) 大学病院と歯科医師会との連携について

北海道大学から、同窓会側からの要請で大学病院に対し、地域医療により密接に貢献するためと、歯科医師会の保険担当者による指導を行いたいという目的で、歯科医師会への入会を検討しているが、各校の状況について質問があった。新潟大学は・入会していない・総括副院長が準会員として入会しており、各種情報の提供を相互に行うとともに、歯科医師会主催の健康事業等に参画していると回答した。

8) 次期・次々期当番校について

次 期：広島大学

次々期：東京医科歯科大学

9) その他

- ・九州歯科大学の加入について、次年度の協議事項とする
- ・全歯懇のあり方について、今後も検討する

7. 次期当番校挨拶

広島大学同窓会 会長 佐々木 元

8. 閉会の辞

北海道大学歯学部同窓会
常務理事 井谷 秀朗

歯学科6年生、口腔生命福祉学科4年生と歯学部同窓会との交流会

渉外担当理事 多部田 康 一

10月1日(金)に「平成22年度歯学科6年生、口腔生命福祉学科4年生と新潟大学歯学部同窓会との交流会」が歯学部大会議室で開催されました。歯学科6年生、口腔生命福祉学科4年生のほぼ全員の学生さんと同窓会からは15名の先生方に御参加いただきました。多和田会長よりの御挨拶に始まり、佐々木専務理事、昆会計理事からの同窓会入会案内、鈴木政弘副会長から乾杯の音頭により会は進行いたしました。企画として野内先生から歯学部卒業後についてのプレゼンテーションをしていただきました。とても和んだ雰囲気にて2時間ほどの歓談が行われました。このような機会を設ける趣旨として、卒業前の学生さんが不安、疑問に思ふような事柄に可能なアドバイスをすることにより同窓会として少しでもお役に立ちたい。また将来同窓会の一員として協力いただく学生さ





んに歯学部同窓会の活動について理解していただくことにより、今後の新潟大学歯学部同窓会を歯学科、口腔生命福祉学科共に協力してより盛り上げて頂くをお願いをしたいということが挙げられます。今回は開業されている先生方、大学に勤務される先生方がバランス良く参加してありましたのでこの機会が学生さんのお役に立てていたら幸いです。

同窓会学術セミナー『歯周外科を極める』を受講して

29期生 阿部能久

卒業して11年ぶりの新潟。新幹線、瓦の屋根、暖かい空気。北海道に無いもの。じわっと、込み上げるものがありながら奥田先生の最強のペリオ、出席させていただきました。

1. 破格の講習料

コンビニの数より多い歯科医院、の院長ですので、銀行への返済、衛生士の確保、経営、日々の診療、家族の事、などなど。意外に時間もお金も、ありません。2日間で、盛り沢山の講義、実習内容は札幌から飛行機代、宿泊費をかけても余りあるものでした。他の受講された先生方も、四国や名古屋からも、いらしているようで、熱気あるセミナーとなりました。ありがとうございました。

2. ライターの先生方のきめの細かい指導と器材等の充実

まず歯周病の徹底した講義、そしてスケー

ラーのシャープニングから始まったのには驚きました。でもこれが良い。翌日からウチの衛生士に、したり顔で教えました。GTR、FGG-遊離歯肉移植術、CTG-結合組織移植術、側方移動術、そしてインプラント埋入や上部構造のための印象、エムドゲインに至るまで、前後の講義を含め、この実習の内容はかなり濃いものでした。奥田先生の『豚顎は予備が、かなりあります。納得がいかない、もう一度やりたい、という先生は、是非どうぞ』というマイクを通してピンピン響いてくる声も嬉しかった。私のような劣等生にも全て、ですます調で接していただいたライターの先生方、ありがとうございました。本当、豚顎実習には感激しました。業者の講座は値段だけ高く、ハンズオンといっても、プラスチック模型で、『はい、先生方わかりましたね。』と。まさにこれは生身です。午前中は悪戦苦闘、でも午後からは、少しカッコになってまいりました。豚顎の確保、解凍、その後の処理を考えますと、大学の先生方のサービス残業的なものに支えられての事と思います。ありがとうございます。

3. 様々な意味での学門的レベルの高さ

GTR、GBR、インプラントなど実習内容の事は大学病院の先生方は日常の事と思いますが奥田先生の論文が世界ベスト8のものである事など刺激的です。今回のセミナーに出席して、納得、そして確信しました。歯周病科をはじめ、研究レベルが高いまま維持できている新潟大学の同窓生であることを、小樽より参加して誇りに思えるのを実感できたセミナーでした。競争





的資金とってこられて、更なる研究の発展をお祈り申し上げます。

今後とも、開業医、勤務医のレベル向上のため、新潟大学のため、このような学術講演会をどんどん実施して下さいますようお願い致します。個人的な希望になってしまいますが、大学の先生方には大変ご苦勞をおかけすることにはなるものの、今後、口腔外科から衛生士の教育、指導まで時々このような学術講演会を開いて頂けることを期待しております。



「歯周手術、インプラント治療へのブレイクスルー実習歯周外科を極める！」を受講して

23期生 大澤 誠 一

2004、2005年に好評を博した「最強！ ドクター奥田のペリオ、インプラント実習」がさらにパワーアップして戻ってまいりました。という何とも魅力的な学術セミナーの案内。

5年前もその魅力を感じながらも遠方？ を理由に参加せず(自分に対する言い訳ですが…)、後悔もあり、今回受講させて頂きました。

北は北海道、南は四国まで全国各地から受講生の先生が集まり、2日間の実習が始まりました。

初日は、まず講義で歯周治療の考え方を極めた後、ダルスケーラーを手用研磨及び、自動研磨機にて実際に刃を形成する実習。完璧にシャープニング出来ている状態を体感出来たと同時に、この状態を作り上げ、常に維持して行く事の難しさ、そして、それなくして歯周治療はあり得ない事を再確認しました。

2日目、いよいよ豚顎実習。

奥田先生より「豚で出来るからと言って人で出来る訳ではないが、豚で出来ない事は人で絶対に出来ません。今日は焦らず確実に覚えて帰して下さい。」と温かいお言葉。思えば学生時代や研修医時代、この実習室や外来でライターの先生方に励まされ、御指導頂いたにも関わらず、その有難味をどれ程解っていたらうか？ あれから20年

近く経ち、知識や技術の習得の為に、こうして参加を決意する事に始まり、それに向けて時間を作り、自ら足を運ぶ立場になり(それが当たり前なのですが)、如何にあの時が恵まれた環境であったのか、そしてその素晴らしい環境に気付いていなかったのかを改めて認識しました。

実習内容はGTR、遊離歯肉移植術、歯肉結合組織移植術、有茎弁側方移動術、各種縫合法、インプラント埋入実習と盛り沢山で、豚顎2頭を使用、ライターの先生も5人に一人の割合で指導に当たって頂いたので、各ステップで確認をして頂きながら実習を進める事が出来ました。最後に村田先生より症例検討があり、学んだ手技を用いた実際の症例、またエムドゲインについても解説頂きました。

この実習を通して講師の先生方のおっしゃっている内容に共通して“基本を大切にすることの重要性”があると思います。的確な診断、完璧にシャープニングの出来たスケラーの準備、確実な切開、剝離、徹底的な搔爬、そして縫合。難しい術式もこれらの基本事項の積み重ねである事、また、基本重視の考え方は臨床だけでなくすべての事柄に共通する事。これが私の2日間を通した感想であります。

最後になりますが、休日にも関わらず懇切丁寧に指導頂きましたインストラクターの先生方、並びに学術セミナー担当の先生方、誠にありがとうございました。

この場を借りて厚くお礼申し上げます。





女性会員支援部の設置

会長 多和田 孝 雄

新潟大学歯学部歯学科卒業生の男女構成比率はこの10年ほぼ半々で推移しており、同窓会としても女性特有の問題に取り組まない訳には参りません。結婚、妊娠、育児、場合によっては介護等の理由で歯科臨床の第一線を退いた方も少なくないと推測します。女性会員支援部は育児等から手の離れた女性会員の診療復帰の為に各種情報の提供をその事業目的の一つとしております。

歯学部のもう一つの学科である口腔生命福祉学科の卒業生はそのほとんどが女性で占められており、歯学科と類似の問題が比較的早期に顕在化するのではないかと予測されます。現在は口腔生命福祉学科の教職員による手厚い支援を受けておりますが、同窓会としても10年先、20年先を見通した包括支援を構築したいと考えております。その為に同部の理事の半数は口腔生命福祉学科の卒業生に就任していただいております。

また、同部では女性会員のためのメールマガジンを立ち上げ、診療復帰に役立つ学術情報、求人・求職情報の配信と女性会員同士の話題交換の場を提供しております。女性が興味を持ちそうな情報の提供や後輩から先輩への質問、先輩から後輩へのアドバイスにもご利用いただきたいと願います。

同部には今後女性会員のための更なる事業を創設し、同窓会の大きな柱に育てていただきたいと期待いたします。

なぜ、女性会員支援部なのか

女性会員支援部部長 岡 田 朋 子

新しく女性会員支援部を設置すると聞いた時、女性会員だけのためになぜ新しい部が必要なのか？と最初は疑問に思いました。私自身は、男女平等、分け隔てなく大学で学び、卒後も女であることで

(多少のメリットを感じたことはあっても)、不自由を感じることなく仕事をしてきたからです。しかし、その理由を多和田会長から聞いた時、「今はそんな時代なのか」と考えを改めた次第です。

女性が少数派の時代は終わり、今や卒業生の半数が女性。女性だつてばりばり仕事をすれば良いじゃあないかと思いきや、それが許される社会環境はさほど整っていないのが現状とのこと。女性会員支援部の立ち上げに当たってアンケート調査を実施したところ、家事や育児のしわよせは女性に偏っており、その結果、多くの人が健康や労働時間などへの不安を感じつつ我が身を削って仕事と両立している。結婚や出産で仕事を中断した人が復職の機会を求めても、情報や環境が不足している実態が見えて来ました。半数が女性でありながら安心して働くことができない社会を簡単に変えることはできませんが、だからこそ、ほんの小さな拠り所としての女性会員支援部の存在意義があるのかもしれない。歯学科、口腔生命福祉学科で手を取り合って、楽しみながら取り組んでいきたいと思っています。

準会員・臨床研修医支援部の設置

会長 多和田 孝 雄

新潟大学歯学部同窓会では準会員支援事業として既に歯学部運動会とSCRP及び歯学祭への資金援助、歯学科6年生・口腔生命福祉学科4年生との交流会、卒業式の日で開催される同窓会入会式での軽食の提供とネームプレート(歯学部玄関脇に設置)の贈呈及びバス又はタクシーを借り切つての歯学部から卒業式会場への移手段の確保、歯学部の名誉高揚に寄与した学生の表彰を行っております。しかし、全学年を通した学生さんとの直接対話の機会がなく、同窓会の認識度は高くありません。同部の設置によりこの面を改善し、更なる学生支援に繋げると共に同窓会への帰属意識の強化を図りたいと考えます。

臨床研修医の場合、人間関係を含めた研修その





ものや先々の就職問題等での精神的負担は少なくないと推測します。同窓会役員が直接面談しての精神面のサポートはまだその時期ではありませんが、同窓会事業の一つである求人・求職支援事業を応用しての就職支援等は間接的に彼らの負担を軽減すると考えます。同部には既存の同窓会事業を精査して研修医の支援に繋げると共に新規事業をも立案して幅広いサポート体制の構築を期待いたします。

準会員・臨床研修医支援部

準会員・臨床研修医
支援部部长 有松 美紀子

今年度より、準会員・臨床研修医支援部が新設されました。準会員（学生）と、同窓生となられた研修医の先生方に対して同窓会として何か支援できないか、という多和田同窓会長の思いによるものです。

具体的な活動として、「国試合格体験談を聞く会」の見守り、求職活動支援、研修医支援塾の開催等です。

部員は、松山先生（小児歯科）、小松先生（歯周科）、飯塚先生（研修医）で、開業医の私にとって

は、学内の先生方は大変心強い存在です。

10月28日に第1回研修医支援塾を開催しました。同窓生の開業医、野内昭宏先生（20期生）と高橋佳男先生（36期生）のお二人からパワーポイントを使用して、卒業から開業に到るまでの経緯や現在の仕事の様子などをお話して頂きました。

野内先生は、さまざまなデータを用いて現在の歯科界の現状、今後の予想図などを示され、高橋先生は卒業後も勉強をし続けることの重要性をアドバイスされました。

次回は、研修医さんのニーズを拾い、開催時期、時間等も考慮し開催したいと思います。

求職活動支援は、同窓会各支部の開業医の先生方のご協力を頂き、感謝しております。しかし、研修医の先生方のニーズに応えるには難しく、殊に新潟市は当同窓会のみでは困難です。今後は、他大学同窓会との連携によりネットワーク作りを行い、改善を図ることになると思われます。

今年度は歯学科対象の活動でしたが来年度からは歯学科、口腔生命福祉科の両学科を考慮した活動に取り組んで参りたいと思います。

不慣れではございますが、宜しくお願い致します。

